

◇現代ビジネス学科 主要科目の特長

科目	特長
ボランティア体験A	<p>地域社会の課題を理解し、地域への参加および社会に貢献する心の育成を目的とする。主に教育支援活動、福祉活動そして地域のイベント運営ボランティアとして参加する。子どもたちや高齢者などの幅広い世代の方々とコミュニケーションを通じ、礼儀やマナーなどを体験的な学習で学びながら、主体性や対話力を養成する。</p>
語学・異文化体験演習	<p>英語圏での4週間の英語学習、生活を通して、グローバルな視野を育むことを目的とする。授業は、現地の英語プログラムを履修し、履修者の英語力に応じたクラス編成で、スピーキング、リスニング(発音を含む)、リーディング、ライティングの4技能の訓練を受け、総合的なコミュニケーション力を身につける。また、ホームステイを経験することで、現地の社会・文化に肌で触れ、体験する。</p>
長期インターンシップ	<p>長期インターンシップとして、3ヶ月～半年に渡り原則として週1回・40時間以上の企業実習を行う。より深く企業等の実務を経験し、大学での専門分野の学習とインターンシップによる実践の反復を狙いとする。事前研修では、インターンシップの目的・意義をもとに能力開発目標を設定し、ビジネスマナー、業界研究や企業研究を行う。事後研修では、実習経験についてワークショップを通じて振り返り、今後の進路選択や就職活動への活用を考え、実践的な学修意欲と主体的な職業選択能力の向上を図る。</p>
プロジェクト実践 I	<p>地方公共団体、地元産業界、地域社会、他学部などと連携して、実際に問題を解決して地域活性化を目指すことを目的に、年間を通じてプロジェクトを実施する。この授業では、プロジェクト学習プロセス前半の3プロセスである①テーマ決定・問題発見と明確化、②計画立案、③問題解決策の創出を実施する。特に、問題発見と解決策の創出に主眼をおき、地域における問題を正確に理解し、問題を解決するより多くのアイデアを生み出すことを目的とする。1プロジェクトは10名程度の学生で構成する。</p>
グローバル経済事情	<p>現代のようなグローバル化の時代においては国際間の取引に関わる様々な問題の理解が不可欠である。グローバル経済を多面的に理解し、受講生がグローバル化にいかに関わっていくかを考えるための指針となる授業を目指す。前半ではグローバル化を経済、政治の側面から理論的に理解する国際経済学の学修が中心となる。後半ではテーマ別に国際経済の変化・現状を具体的に理解していく。</p>

◇現代ビジネス学科 主要科目の特長

科目	特長
経営学	世界経済，社会に対して大きな影響を及ぼす大企業に焦点を当て，その仕組みと本質について解説する。企業と利害関係者，株式会社の仕組み，財務と会計，人的資源管理，生産管理，マーケティングなどについて理解することを目的としている。
ミクロ経済Ⅰ	ミクロ経済学は、市場のはたらき、資源配分のメカニズムを分析するための手法である。「ミクロ経済Ⅰ」では、部分均衡分析の基礎理論を学び、経済学的考え方を身につけることを目標とする。基礎的な概念からしっかりと勉強し、市場のはたらきについての理解を深め、身近な経済問題について経済学的に考察するための基礎的な力を養う。
マクロ経済Ⅰ	マクロ経済学の基本的な概念とモデルを学ぶことで、マクロ経済政策を評価する考え方を学んでいく。基本的には、海外との取引のない「国内経済」を想定し、財市場・金融市場・労働市場の動きと相互連関を捉えるための基本的なモデル(45度線モデル・IS-LMモデル・AD-ASモデル)と、それらのモデルにおける財政・金融政策の役割と効果について学んでいく。
地域政策	現在、少子高齢化社会、経済格差、地域共同体意識の変容など、地域社会は様々な問題を抱えている。この授業では、地域社会が直面している課題とその解決策を地域活性化の視点から考える。なお、地域社会の安定した発展に必要とされる政策について、行政の取り組みや地域住民の活動など具体的事例を取り上げ考察する。地域が抱えている課題を通して、地域活性化に有効な地域政策について理解することを講義の目的とする。
経済政策	ミクロ経済Ⅰ・マクロ経済Ⅰで学んだ標準的な経済分析を振り返りつつ、それを政治経済や再分配政策に応用し、経済現象を分析し、あるべき経済政策を考えていくことを目的とする。複雑な経済現象を理解・評価する上で、必修で学んだ経済理論が有用であることを実感してもらいたい。

◇現代ビジネス学科 主要科目の特長

科目	特長
統計学	<p>現代社会におけるデータに基づいた意思決定や問題解決能力を養うことを目的とする。まず、統計学の基礎を復習しながらExcelを活用した相関分析を行い、その後は回帰分析や時系列データの扱い方を学ぶ。また、PPDACサイクルを地域課題やビジネスに応用する方法を実践的に学ぶ。地域経済分析システム (RESAS) やデータの可視化、統計GISも扱い、最終的にはこれらの知識を総合的に活用できる能力を身につけることを目指す。</p>
AI・データサイエンス活用論	<p>今、あらゆる分野において事業やサービスをデータ駆動型に変革(DX)する人材が求められている。この授業ではDXを推進するために必要な下記の心構えやスキルについて事例紹介やワークを通じて学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 先入観があると自覚して、謙虚に、ファクトを重視する。 2) AIの特性を理解し、現場の状況に応じた導入を検討できる。 3) 事業をモデル化して捉えられるようになる。
データ活用演習 I	<p>データを道具として課題解決力を向上させることを目的に、現状把握や課題の可視化等につながるグラフの作成に習熟することを目標とする。データ活用を重視する企業や自治体で採用されているデータ可視化ツール「Tableau」を中心に使用し、さまざまなデータの見方を試す中で、何か傾向を見出した時の喜びを体験できればと考えている。</p>